



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月14日

上場会社名 日本サード・パーティ株式会社
 コード番号 2488 URL <https://www.jtp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森 豊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 伊達 仁
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6408-2488

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	3,456	0.1	164	9.6	165	13.8	112	26.0
29年3月期第3四半期	3,455	0.3	150	12.7	145	15.2	89	11.1

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 115百万円 (18.9%) 29年3月期第3四半期 97百万円 (5.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	22.16	
29年3月期第3四半期	17.51	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	2,646	1,701	64.3	334.66
29年3月期	2,706	1,636	60.5	321.87

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,701百万円 29年3月期 1,636百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		10.00	10.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				17.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,800	3.6	205	5.0	205	50.6	100		19.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) 上海薩徳 (外字の為、表示できません。左側「巾」に右側「白」)迪信息技术有限公司

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	6,015,600 株	29年3月期	6,015,600 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	930,141 株	29年3月期	930,141 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	5,085,459 株	29年3月期3Q	5,106,499 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、既存事業で安定的な収益を上げ、その利益を新規事業への投資に充てるという基本方針のもと、当第3四半期連結累計期間においては、既存事業の拡大と新規事業のサービス化に経営資源を集中的に投下致しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,456,965千円（前年同期比0.1%増）、営業利益は164,659千円（同9.6%増）、経常利益は165,483千円（同13.8%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は112,716千円（同26.0%増）となりました

なお平成30年3月期通期連結業績予想（平成29年5月15日公表）に対する進捗率は、下表の通りです。

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期 (四半期) 純利益 (百万円)	1株当たり 当期(四半期) 純利益 (円)
通期業績予想	4,800	205	205	100	19.66
当第3四半期 実績	3,456	164	165	112	22.16
進捗率	72.0%	80.3%	80.7%	112.7%	—

*当第3四半期連結累計期間において親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益が通期業績予想を上回っておりますが、現時点において通期の業績予想は、前回公表した業績予想を据え置いております。今後の業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

セグメントごとの業績は、次の通りであります。

①教育ソリューション事業

海外メーカやサービスベンダが日本市場へ参入した際に、必要となるエンドユーザー向けの技術トレーニング事業を請負うほか、ITスキルアセスメントツールであるGAIT（ゲイト）によるスキルの棚卸しから不足するスキルを補う教育までのサイクルを総合的な人財コンサルティングサービスとして提供しております。当第3四半期連結累計期間は、顧客企業の新人研修の受注が増加したことにより、また技術トレーニング事業の教室及び講師の稼働率が高く推移したこと、更に前年同期と比較してGAITの受験者数が大幅に増加したことから、売上高は526,841千円（前年同期比10.9%増）、セグメント利益は115,981千円（同57.0%増）となりました。

②ICTソリューション事業

ICTシステム的设计・構築・運用・保守サービスと製造支援サービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、設計・構築・運用・保守サービスにおいて業務拡大を図り、新規顧客開拓とパートナーの活用を含めたエンジニアの採用及び育成を積極的に投資致しました。以上の結果、売上高は1,916,380千円（同0.6%増）、セグメント利益は376,017千円（同2.3%減）となりました。

③西日本ソリューション事業

西日本地域におけるICTシステムの運用・保守サービスとライフサイエンスサービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、ICTシステムの運用業務及びライフサイエンスサービス業務の拡大を図った結果、業務の受託量が前年同期比で大幅に増加致しました。その結果、売上高は438,452千円（同2.3%増）、セグメント利益は51,571千円（同27.4%増）となりました。

④ライフサイエンスサービス事業

医療機器、化学分析装置などの保守サービスを提供しております。当第3四半期連結累計期間は、分析機器システムのプロジェクト案件の検収により、売上高・利益の押し上げがありました。成長分野であるメディカル分野においては、既存顧客の業務拡大ニーズと新規顧客の獲得により、新たにエンジニアの採用と育成を行う必要があったため、エンジニアの採用及び育成を積極的に投資致しました。また、新たに医療機器製造業・製造販売業の業許可取得のための費用計上がありました。以上の結果、業務量が前年同期比で増加し売上高は499,515千円（同8.1%増）、セグメント利益は71,830千円（同8.0%減）となりました。

⑤その他

①～④は、当社が創業以来取り組んできました国内外（メーカ）企業からのアウトソーシング（請負）事業であることに対して、本セグメントは、新規事業であります。「Connect to the Future ～お客様の未来を新しい技術でつなぐ～」という新たなミッションを掲げ、2年前より新たに自社サービスを開発してまいりました。当第3四半期連結累計期間においては、AI（人工知能）の新サービス「Third AI（サードアイ）」の開発に注力し、リリースを致しました。この「Third AI（サードアイ）」は、様々なインターフェースからの情報を、既存のAIエンジンを活用し処理を行う、ソリューションサービスの総称であります。具体的には、以下のサービスをリリース致しました。

- ・コールセンタに新たな顧客接点を作るソリューションとして LINEカスタマーコネクトとAIエンジンを活用した「Third AI コンタクトセンターソリューション」
- ・ソーシャルメディアで新たな顧客開拓を支援するAIエンジンを活用した「Third AIマーケティングソリューション」
- ・インターネットを活用したリアルタイムコミュニケーションを人とAIエンジンのハイブリッドで利活用する「チャットボットアプリケーション」

また新たに注目を集めるRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の技術を活用したソリューション開発を開始しました。

上記の通り当期は、これまでの投資の成果が徐々に見え始めた段階に入りましたが、売上高は75,774千円（同58.9%減）、セグメント損失は55,310千円（前年同期は48,857千円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比し60,178千円減少し2,646,419千円となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末と比し27,541千円減少し2,196,402千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末と比し32,637千円減少し450,017千円となりました。これは主に、減価償却費の計上による有形固定資産、無形固定資産の減少によるものであります。

負債合計につきましては、前連結会計年度末と比し125,251千円減少し944,480千円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末と比し153,178千円減少し470,736千円となりました。これは主に、訴訟損失引当金、賞与引当金、未払法人税等の減少によるものであります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末と比し27,926千円増加し473,743千円となりました。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比し65,073千円増加し1,701,939千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に対し、剰余金の配当によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年3月期通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間において親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益が通期業績予想を上回っておりますが、現時点において通期の業績予想は、前回公表した業績予想を据え置いております。今後の業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,290,598	1,185,558
受取手形及び売掛金	713,125	782,479
商品	29,181	24,161
仕掛品	15,035	31,466
原材料及び貯蔵品	10,817	10,994
その他	177,181	174,542
貸倒引当金	△11,997	△12,799
流動資産合計	2,223,943	2,196,402
固定資産		
有形固定資産	125,288	121,483
無形固定資産	59,968	40,167
投資その他の資産		
その他	335,595	291,221
貸倒引当金	△38,197	△2,855
投資その他の資産合計	297,398	288,366
固定資産合計	482,655	450,017
資産合計	2,706,598	2,646,419
負債の部		
流動負債		
買掛金	87,437	80,267
未払法人税等	34,047	—
賞与引当金	170,443	91,762
役員賞与引当金	14,400	900
訴訟損失引当金	80,000	—
その他	237,586	297,806
流動負債合計	623,915	470,736
固定負債		
退職給付に係る負債	439,829	466,519
その他	5,987	7,224
固定負債合計	445,816	473,743
負債合計	1,069,731	944,480
純資産の部		
株主資本		
資本金	795,475	795,475
資本剰余金	647,175	647,175
利益剰余金	701,708	763,570
自己株式	△478,714	△478,714
株主資本合計	1,665,644	1,727,506
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	24
為替換算調整勘定	△6,177	△7,153
退職給付に係る調整累計額	△22,600	△18,438
その他の包括利益累計額合計	△28,778	△25,567
純資産合計	1,636,866	1,701,939
負債純資産合計	2,706,598	2,646,419

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	3,455,117	3,456,965
売上原価	2,810,153	2,748,424
売上総利益	644,963	708,541
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	139,954	163,607
賞与引当金繰入額	10,409	12,959
役員賞与引当金繰入額	13,500	900
退職給付費用	4,228	4,746
その他	326,660	361,668
販売費及び一般管理費合計	494,753	543,881
営業利益	150,210	164,659
営業外収益		
受取利息	36	31
受取出向料	—	422
為替差益	1,058	317
その他	527	112
営業外収益合計	1,622	884
営業外費用		
支払利息	218	59
持分法による投資損失	4,617	—
貸倒損失	1,493	—
その他	93	0
営業外費用合計	6,423	60
経常利益	145,409	165,483
特別利益		
短期売買利益受贈益	—	2,308
関係会社清算益	—	726
特別利益合計	—	3,034
特別損失		
関係会社清算損	3,548	—
特別損失合計	3,548	—
税金等調整前四半期純利益	141,860	168,517
法人税、住民税及び事業税	11,355	6,518
法人税等調整額	41,083	49,283
法人税等合計	52,438	55,801
四半期純利益	89,422	112,716
親会社株主に帰属する四半期純利益	89,422	112,716

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	89,422	112,716
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	183	24
為替換算調整勘定	3,559	△975
退職給付に係る調整額	4,357	4,162
その他の包括利益合計	8,100	3,211
四半期包括利益	97,523	115,927
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	97,523	115,927
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。